

日本放送協会 理事会議事録

(平成28年 3月 1日開催分)

平成28年 3月18日(金)公表

<会議の名称>

理事会

<会議日時>

平成28年 3月 1日(火) 午前9時00分～9時30分

<出席者>

梶井会長、堂元副会長、板野専務理事、福井専務理事、森永理事、
井上理事、浜田技師長、今井理事、坂本理事、安齋理事
上田監査委員

<場所>

放送センター 役員会議室

<議事>

梶井会長が開会を宣言し、議事に入った。

付議事項

1 審議事項

(1) 第1256回経営委員会付議事項について

2 報告事項

(1) 平成28年度各地方向け地域放送番組編集計画および編成計画について

(2) 考査報告

(3) 放送番組審議会議事録(資料)

議事経過

1 審議事項

(1) 第1256回経営委員会付議事項について

(経営企画局)

3月8日に開催される第1256回経営委員会に付議する事項について、審議をお願いします。

付議事項は、報告事項として「平成28年度各地方向け地域放送番組編集計画および編成計画について」です。また、その他の事項として「テレビ放送の同時配信の試験的提供（試験的提供A）報告」と「平成28年春季交渉について」です。

(会長) 原案どおり決定します。

2 報告事項

(1) 平成28年度各地方向け地域放送番組編集計画および編成計画について

(編成局)

「平成28年度各地方向け地域放送番組編集計画」（以下、「編集計画」）と「平成28年度各地方向け地域放送番組編成計画」（以下、「編成計画」）について報告します。

編集計画は、28年2月開催の各地方放送番組審議会に諮問し、可とする旨の答申を得て決定したものです。なお、各編集計画とも、1月12日の第1252回経営委員会で議決を得た「平成28年度国内放送番組編集の基本計画」に基づき、それぞれの地域実情にあわせたきめ細かな地域放送の実施と、地域からの積極的な全国発信を行うことを主な内容としています。28年度の編集計画は、各地方とも共通して、「地域の“安全・安心の拠点”として防災・減災報道に取り組むこと」、「地域の課題に向き合い、解決の糸口を探ること」、「地域の豊かな自然や文化などを、地域だけでなく全国・世界に向けて発信し、地域の活性化に貢献していくこと」、および「正確・迅速、公平・公正な選挙報道」などについて、記載しています。

そうした地域の編集計画に基づいて作成された編成計画は、2月26日の放送総局編集会議での審議を経て決定しました。

各地方の編集計画および編成計画のポイントを説明します。

関東甲信越地方は、日本の総人口の約4割が集中する地域で“安全・安心の拠点”の役割を果たすために、首都直下地震への備えを充実させるなど、防災・減災報道に努めます。また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックへの準備を加速し、東京の魅力を国内外に発信するとともに、アスリートの挑戦や障害者スポーツの魅力を伝えます。関東甲信越地方の編成計画については大きな変更はありません。

近畿地方は、南海トラフ巨大地震や首都直下地震などに備え、「本部のバックアップ機能の強化」に引き続き取り組みます。また、関西固有の多様な魅力や各界で活躍する人々の話題を全国・世界へ発信し、多彩な番組を通して地域の活性化に貢献します。日曜日午後1時台に、これまで土曜日午前10時台に放送していた若者向け番組の後継番組を放送します。

中部地方は、東海地震を含む南海トラフ巨大地震や火山など、大きな被害が予想される自然災害に日頃から備え、防災・減災報道に取り組みます。また、伊勢志摩サミットがもたらす影響を取材します。さらに、“ものづくりの力”や豊かな文化、自然などの中部地方の魅力や特色を発信します。日曜日午後1時台に「日曜Tube」を放送します。ラジオ第1の午後5時台では、富山放送局と福井放送局が新設します。

中国地方は、広島で26年に発生した土砂災害などを教訓に、日頃から防災・減災情報を発信します。また、被爆71年となる今年も、被爆体験の記録と次世代への継承に取り組みます。さらに、地域ドラマなどを通して、魅力あふれる文化や風土を全国に発信します。ラジオ第1で、平日午後5時台に広島放送局が県域向けの番組を月曜日から木曜日に新設し、金曜日には中国地方向けの番組を新設します。

九州沖縄地方は、9局のネットワークを生かし、“命と暮らしを守る”正確で頼りになる報道に取り組みます。平時から防災・減災報道、地域に密着した情報を提供します。また、戦争体験・被爆体験を伝え続けるとともに、九州沖縄の多様な伝統・文化・歴史を見つめ直し、ふるさとのすばらしさを伝えていきます。金曜日夜間は、福岡放送局が九州沖縄地方向け番組を刷新し、大分放送局も新番組を編成します。

東北地方は、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の教訓を生かし、“次なる災害”への備えを全国に発信します。また、復興の後押しをするとともに、震災の記憶の風化を防ぎ、人口減少などの地域の課題にも取り組みます。これまで月曜日午後3時台に放送していた「きらり！えん旅」を日曜日午後1時台に移設します。ラジオ第1では福島放送局が平日午後5時台に番組を新設します。

北海道地方は、正確・迅速に防災・減災報道、緊急報道を行い、地域のライフラインの役割を果たします。また、TPP交渉合意や北海道新幹線開業など、北海道を取り巻く経済や政治などの動きを取材します。さらに、4年目を迎える「I LOVE JIMOTO 北海道キャンペーン」を継続し、北海道の暮らしを応援していきます。日曜日午後1時台に「北海道LOVEテレビ」を放送します。

四国地方は、南海トラフ巨大地震や大津波などの自然災害に備えて、四国4局で報道体制や機能を一層強化します。また、国内外から人を呼び込もうとする地域の取り組みに合わせて、「Discover四国」を展開し、番組やニュースで四国の活性化に貢献します。金曜日夜間に、「Discover四国」、日曜日午後1時台に、「四国えかこと！」を放送します。ラジオ第1では、松山放送局が月曜日午後5時台に県域番組を新設します。

本件は、3月8日開催の第1256回経営委員会に報告します。

(会長) 各放送局が地域に密着し、地域の魅力・課題を全国、そして世界に発信することは我々の重要な役目なので、よろしく申し上げます。

(2) 考査報告

(考査室)

平成28年1月18日から2月23日までの間に放送した、ニュースと番組について考査した内容を報告します。

この期間に、国内放送番組では、ニュース25項目、番組59本の考査を実施しました。

ニュースの主な項目としては、北朝鮮が事実上の長距離弾道ミサイルを発射したこと、日本銀行が当座預金金利をマイナスにする金融緩和策

を初めて決定したことなどがありました。

番組では、日本と日本人とは何かを問い続けてきた作家・司馬遼太郎の作品に登場した言葉“島国”と“武士”からその答えを探る、NHKスペシャル「司馬遼太郎思索紀行 この国のかたち」(全2回)の第1集「“島国”ニッポンの叡智」(2月13日放送)、大舞台で活躍が期待されるアスリートの魅力に迫る新しいスポーツ番組「グッと！スポーツ」(総合 2月20日放送)などの番組を考査しました。

また、国際放送では、外国人向けテレビ国際放送「NHKワールドTV」のニュース6項目と番組3本の考査を実施しました。考査したのは、北朝鮮による事実上の長距離弾道ミサイルの発射と経過、それに対する国際社会の反応を伝えた「NEWSLINE」(日本時間2月7日放送など)、外国人旅行者向けに日本の魅力を伝える旅行情報番組「J-Trip Plan」などです。

考査の結果、これらの一連のニュース・番組は、放送法、国内番組基準、国際番組基準等に照らし、妥当であったと判断します。

(3) 放送番組審議会議事録(資料)

編成局と国際放送局から、中央放送番組審議会、国際放送番組審議会、全国の地方放送番組審議会(関東甲信越、近畿、中部、中国、九州沖縄、東北、北海道、四国)の平成28年1月開催分の議事録についての報告。

注：放送番組審議会の内容は、NHKのホームページ「NHKオンライン」の「経営情報」のなかに掲載しています。

以上で付議事項を終了した。

上記のとおり確認した。

平成28年 3月16日

会 長 梶 井 勝 人